

分野E（新領域をめぐる問題）		
「先端技術による安全保障リスクの多面的分析」（１年目／３年事業）		
（中曽根康弘世界平和研究所）		
（ア）補助事業の進展状況	補助金の目的・意義に照らして、着実に補助事業が進展しているか。	B
	今後の補助事業推進上、問題となる点はないか。	B
	基礎的情報収集・調査研究	
	補助事業者の情報収集・調査分析能力が強化されたか。	B
	情報収集・調査分析の成果のHP上での公表等、しかるべき発信が実施できたか。	B
	諸外国シンクタンク・有識者との討論等の実施	
	研究過程における外国シンクタンク・有識者等（在日の有識者、外交官、外国メディア関係者を含む）との定期的な討論の実施及びこれを通じた日本人研究者（特に若手・中堅）の英語発信の強化に取り組んでいるか。また、共同研究などが諸外国の視点を取り入れつつ、適切に実施されているか。日本の立場や見解を諸外国カウンターパートに深く理解させることができているか。	B
	日本の主張の世界への積極的発信と国際世論形成への参画	
	セミナー・シンポジウムの実施・参加及びその広報等を通じた国際社会への発信が積極的になされたか。また、その結果として国際社会世論形成に参画することができたか。	C
	国民の外交・安全保障問題に関する理解増進	
	事業成果をわかりやすい形でインターネットを通じ一般公開しているか。	B
	企業などに向けた情報提供サービスや幅広い国民が参加できるシンポジウムの開催等により、国民の外交・安全保障に関する理解増進に努めたか。また、その反響があったか。	B
	その他	
	補助事業の目的・意義に照らし、現時点で期待された成果をあげているか。（あげつつあるか。）	B
業（ウ）補助事業実施体制	事業を実施するに十分な人的体制が取られているか。	B
	若手・中堅研究者に発表機会を与える等、シンクタンクの人材育成に意を用いているか。	B
	プロジェクトの成果を生み出すための工夫を行っているか。	B
使用（エ）金の補助	補助金は効果的に使用されているか。	B
	経費積算が事業内容に対して妥当であったか。補助金の適正な執行・管理のために十分な体制がとられたか。	B
業（オ）今後の補助事業の推進方策	補助金の目的、補助事業の目的・意義及びこれまでの成果に照らし、次年度の実施計画・体制は適切なものとなっているか。	B
	初年度の成果及び次年度の実施計画にかんがみ、事業を継続した場合の成果が、現実的かつ効果的なものであって外務省による外交政策の企画立案に資するものとなることが期待されるか。	B